

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内(高齢部会)で統一した理念を掲げている。毎年、事業所の全体会議で確認をしている。理念を掲示し職員に意識付けをしている。職員会議では短期目標を掲げて取り組んでいる。目標はいつでも確認できるよう掲示している。	開設当初より法人内で統一されている理念を掲げサービスの実践に繋げている。事業所内の理念掲示や職員会議のサービスの話し合いは理念の意識づけと共有を図る機会となっている。法人で統一された理念を利用者の特性、状況に合わせて毎月サービス目標を掲げ、その振り返りをおこなうなど理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策により、地域との交流ができていない。	地域の小学校や保育園児の訪問、施設開催の「元気会(月1回)」など積極的に地域住民との交流の機会を設けている。コロナ禍で制限されていた利用者の外出は9月より法人内のこども園の掃除や畑の草取りなど少しずつ開始している。今年度は認知症カフェも予定されており、より活発な交流の機会が期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策により、地域との交流ができていない。下半期の活動でオレンジカフェを計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、ひやりはっと、事故、苦情等を報告し、委員の方からご意見を頂いている。今年度上半期の会議開催は1回、他は書面での報告をしている。内容は自由に閲覧できるようにしている。地域で出た課題や活動参加等についてご家族に手紙で伝えている。	地域住民、家族代表、市の担当者参加の下、定期開催が行われている(今年度はコロナ禍のため資料配布1回)今年度より、テーマを決めて開催しており、テーマに即したメンバーの参加にて、活動報告と共に意見、質問など双方向の話し合いがされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員に毎回参加をしてもらっている。意見やアドバイスを頂き、現状を聞いている。	2ヶ月に1回の運営推進会議にて実情を伝え意見、アドバイスをもらっている。今後、認知症カフェ企画運営を機に市担当者との交流を図り、また地域のグループホームの情報交換会等を利用するなどしながら、協力関係の構築に取り組んでいく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回開催している虐待予防研修は全職員を対象として必須になっているが、新型コロナウイルス感染症対策の為、1回目はアンケート方法で行った。毎月の職員会議で検討をしている。	法人内で、外部講師による研修会を全職員対象にて実施している。毎月の職員会にてケアの振り返りを行い、職員間での話し合い、拘束しないケアの理解を図っている。現在、2名の利用者がセンサーマットを検討しながら継続使用している。	現在、2名の利用者がセンサーマットを使用しているが利用に至った過程、現状、課題の記載は確認できず、利用継続との記載のみ確認できる状況であった。使用終了の方向性、また、身体拘束をしないケアの理解と実践のために組織的な計画的対策と実践の明記が必要と思われる。今後「事故・苦情・拘束対策委員会」主導での学習体制や取り組み体制の明文化を図り、職員一人ひとりが現在、何故、そのケアが必要なのを科学的に理解し、一層自信をもってケア内容を説明でき、尊厳あるケア実践ができるよう委員会の企画運営を期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回開催している虐待予防研修は全職員を対象として必須になっているが、新型コロナウイルス感染症対策の為、1回目はアンケート方法で行った。毎月の職員会議で検討をしている。	外部講師による全職員対象の虐待防止研修を法人内で実施している。対策の一環としてのメンタル面のアンケートも行われている。マニュアルが整備され、職員が個々に確認している。事故・苦情・拘束対策委員会を定期開催しており、事故状況報告が行われている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し、復命研修をしているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、下半期を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書と契約書の説明をしている。その際にも入居される上での不安や疑問についてお答えしている。介護報酬改定、利用料改正について書面でお知らせし、面会時にも説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口設置や意見箱の説明を行っている。頂いた内容は広報誌に掲載している。運営推進会議やサービス担当者会議でご意見を伺うが、主に外部評価のアンケートで様々なご意見を頂いている。	家族の面会・電話連絡時、ケアプラン作成時、外部評価でのアンケート等で意見要望を聞く機会とし、出された要望・意見は、随時検討して対応している。利用者の要望意見は、日常の関わりの中で職員からの問いかけや何気ない会話、また24時間シートの情報により把握するように努め、随時検討して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や職員会議、人事考課面接の機会に意見や提案を聞くようにしている。意見は職員会議で検討したり、事業会議に報告している。また職員会議で事業会議の内容を報告している。	利用者や全体に関わる意見要望は、事前にノートに記載してもらい毎月の職員会議で検討して対応している。日々の業務で、物品配置などケアに関わらない気づきなどの意見は決定後、即情報共有を図っている。年2回、人事考課を実施し、個別の意見・要望を聞く機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月施設訪問し、様子を見に来ている。人事考課制度に取り組んでいる。個人目標を設定し向上心を持って働けるよう支援をしている。休暇取得も計画的に取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症対策の為、ほとんどの研修が中止になっている。法人内の研修や、事業所内での研修を工夫して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県グループホーム協会に加盟している。法人内のグループホームと連絡を取っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面会をして話を聞いている。また施設見学に来て頂き、不安に感じていること等を伺い、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居に関する相談を随時行っている。初回の面接等で、ご家族の不安や困っている事等を伺いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーから入居前までの生活の様子を確認している。またご本人、ご家族の要望等を確認し、必要な支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した関係作りに努めている。出来る事、得意なことをして頂き、役割がもてるような支援を心掛けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や相談事などは、面会時や電話でお伝えしている他、毎月の手紙で報告をしている。受診や日用品の補充など、ご家族が行っている。誕生日はご家族の都合を伺い一緒に過ごして頂いているが、今年は新型コロナウイルス感染症対策の為に出来ない為、手紙に写真を同封したり、ホームページで様子を伝えている。	面会時や電話連絡時、毎月担当者より手紙にて日頃の様子を伝えている。また受診の付き添い、日用品の購入、季節の衣替えを家族に依頼することで家族との絆を大切にしている。今年度は手紙に写真を同封し、ホームページで様子を伝えるなど、コロナ禍での対応を行い家族の関係性を支えるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策の為、面会の制限をしている。外出の機会も取れていない。	家族、幼馴染の面会者も高齢化となり、回数が減少しているが、近所の行きつけの店での買い物や理美容室の利用、また家族の協力にてお盆お正月の外泊などを行い、馴染みの関係性が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や性格等を把握している。関わりの中で職員が間に入り、会話の橋渡しをする事がある。また個人の時間を尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入居された後も、必要時グループホームでの様子を伝えたりしている。退居後も野菜を届けて下さるご家族がいらっしゃる。今年は新型コロナウイルス感染症対策の為、行事などのお誘いは出来ていないが、関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に意向を聞きながら支援をいっている。困難な場合はご家族に相談し、検討している。	利用開始前に本人・家族、ケアマネージャー等から意向確認を行っている。入居後は日常の会話やケアの中で把握するよう努めており、家族からは面会時等に確認するようにしている。毎日の献立を利用者と相談してメニューに取り入れたり、入浴時間の希望など、個々の思いを支援に反映させるようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報で今までの生活を職員間で共有している。改めて本人やご家族から伺い、グループホームでの生活や環境が、ご自宅で暮らしていた時と近くなるように努めている。	入居前に自宅や利用していたサービス事業所に出向き、利用者・家族をはじめ、これまでの担当ケアマネージャー等から話を聞き、利用者の理解に努めている。職員は申し送り等で情報共有を行い、一人一人のリズムを大切にしながら、好きなこと、得意なことが継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、過ごし方、出来る事、支援が必要なことを職員間で共有し、対応している。定期的に見直しをしており、現状に合わせた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を開催したり、アセスメント、モニタリング、24時間シートを見直す際は職員間で意見を出し反映している。担当者会議ではご本人やご家族の意向を伺い、介護計画書を作成しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、ご家族の意向は電話で確認をした。	介護計画は計画作成担当者が情報を基に本人・家族の意向踏まえて作成し、入居後は居室担当職員が利用者の状況を把握してモニタリングを実施するなど、分担して作成している。日々の記録には計画を意識した内容で記録を残し、ケア会議等で利用者・家族の意向に合わせて職員間で話し合い、現状に即した介護計画になるよう努めている。	現在、新型コロナウイルス感染防止対策のため、介護計画の作成と見直しの際には家族へは電話で意向確認を行っているが、話し合いの場に利用者は参加していない現状であった。今後は、今以上に利用者の主体的生活支援に向け、利用者自身が介護計画作成のプロセスに参加できる仕組みづくりが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートに沿って記録をしている。申し送りを行い、情報共有をしている。個別ケアに取り組み、職員会議で検討、振り返りを行い、介護計画作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診で、ご家族がすぐに対応できない場合は、状態報告し、職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、今年度は地域行事への参加や、ボランティアとの交流がとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をしている。日々の様子などを状態報告書としてまとめ、かかりつけ医に伝えている。その際にご家族にも情報共有し、受診時に相談しやすいように配慮している。	入居後も本人・家族の希望するかかりつけ医を継続できている。基本的に受診対応は家族にお願いしているが、緊急時の場合は家族に連絡して事業所での対応を行っている。受診の際は本人の状態をまとめた「状態報告書」を書面で家族に渡し、家族と医師と事業所が情報を共有・連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。また、昨年度より診療情報共有のネットワークシステム「うおぬま・米ねっと」への利用登録を本人・家族に呼び掛けているところである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに常勤の看護師は配置していない。内服薬について薬局に相談をしたり、状態に応じ、かかりつけ医に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院に提供している。随時、地域連携室と連絡を取り合い、状態報告や退院に向けての相談をしている。カンファレンスに同席し、退院後のケアについて職員間で共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療の必要性が生じた時の説明をしている。看取りについては対応できていない。ご家族の意向をくみとり、特養への住み替えのご相談をさせて頂いている。	契約時に事業所では終末期の対応ができないことを口頭で説明し理解を得ている。要介護3になった段階で法人内の特別養護老人ホームや他施設への申し込みを勧めており、体調変化が見られた際は再度意向確認を行い、家族や主治医と連携を図りながら、状態に応じた病院や施設へのスムーズな移行支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年、法人内の研修会に参加し復命研修をしているが、今年は新型コロナウイルス感染症対策の為まだ出来ていない。今後施設内研修で行う予定になっている。	緊急時や事故発生対応マニュアル、連絡網が作成されており、職員がいつでも確認できるよう整備されている。AEDの設置はないが近隣の総合体育館のAED使用が可能となっている。職員の実践力向上に向け9月に緊急時の対応研修も開催されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員が中心となり、訓練計画、実地をしている。食料や飲料水等の備蓄をしている。	防災委員を中心に年間の防災活動計画が作成されている。避難訓練は年2回実施しており、火災発生時に煙を吸い込まないためのビニール袋を被った避難方法が行われている。3日分の食料品の備蓄もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄援助等、プライバシーに関わることは、対応や言葉がけに配慮している。	利用者がいるところでは個人名を伏せる、排せつの確認方法は周囲に気づかれないよう伝え方の工夫をするなど、プライバシーに配慮している。また、毎月の会議で言葉がけについて確認し合っている。利用者の個人情報 は鍵のかかる扉の中で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心掛け、一人ひとりの思いや希望を伺っている。その都度、ご本人に確認をしながら支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人からの希望がある際は、可能な限り対応できるよう心掛けているが、場合によっては難しい時がある。その旨ご家族にも報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装になるよう、ご家族に衣替えの依頼をしている。入浴の着替えと一緒に選んだり、起床時や外出時は身だしなみを整える支援をしている。必要時に散髪の依頼をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることをして頂いている。ご本人の好みなどを確認し、必要時は代替の対応をしている。ご家族から頂く野菜やプランター菜園で収穫したもの等、季節の食材を取り入れている。	献立は利用者の希望を踏まえて職員が立てている。食材はネットスーパーを利用しているが、買い物にも出かける機会もある。近所からのいただき物やプランターで採れた野菜を調理して食卓にのせ食事が楽しめるようにしている。調理や片付けなども利用者のできることを大切に一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、食材が偏らないように注意している。食事、水分量を記録し、状態をみて補食を提供し、安定して過ごせるよう支援をしている。脱水防止に寒天を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の対応は出来ていない。声掛けをしたり、1日に1回は口腔ケアの対応をしている。自立されている方の確認が難しい。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人に合ったパットを検討したり、排泄パターンに沿って誘導をしている。自立に向けた支援が難しく職員が介入している。	排せつの声掛けが必要な方もおられるが、職員は利用者の排泄に対する意識や意欲を尊重し、自立に向けた排せつ支援に努めている。また、個々の生活リズムやタイミングで毎日下着の交換支援を行うなど、衛生面でも気持ちよく過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維やオリゴ糖、麦ごはん等の摂取、または水分摂取に働きかけている。医師にも相談をしながら便秘にならないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に拒否がある方は時間や日にちをずらしたり、清拭をしたりしている。職員体制で入浴が難しい日がある。入浴剤を使用し、リラックスできるように対応している。	午前・午後に入浴時間を設けており、その日の体調や気分などに応じて柔軟に入浴支援を行っている。季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯などの変わり湯で入浴を楽しめるようにしている。室内の温度調整や滑り止めマットの使用など安全な環境整備にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整をしている。ご本人の好きなタイミングで休んで頂いている。ご家族と相談し、季節に合わせた掛け布団の依頼をしている。シーツ交換は定期的、または必要時に行い、清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個票に綴り、常に確認できるようにしている。変更の際は申し送り、共有している。服薬支援はマニュアルに沿って対応している。様子についてご家族、医療機関に報告、相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でできることをして頂いている。読書や裁縫をされる方もいる。新型コロナウイルス感染症対策の為、外出や地域行事の参加など出来ない事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、積極的に外出が出来ていないが、外気浴などで気分転換できるよう努めている。受診時にご家族と外食に行かれる方もいる。	今年度は感染症対策のため外出に制限がある中、日々の日光浴や市内をドライブするなどできるだけ気分転換が図れるよう支援している。また、馴染みの床屋へ散髪に出かけたり、受診の帰りに外食をする、自宅に立ち寄るなど、家族にも協力してもらい外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方のみ所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際は施設の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングに季節の花を飾ったり、装飾の工夫をしている。プランターの花を観賞できるように配置したり、エアコンの風が直接当たらないように工夫をしている。	「古民家風」コンセプトで造られた室内は木の温もりを感じられる落ち着いた雰囲気となっている。石畳の玄関を入ると広い廊下とリビングの梁見せの天井が開放的で、リビングの大きな窓からは田園風景が一面に見渡せ、四季折々の移り変わりを楽しむことができる。室内には利用者の手芸作品が飾られ、お洒落で粋な雰囲気を醸し出している。掃除や温度調整も行われ快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的スペースを設えたが、人がいる所が好きなご様子でリビングで過ごされる方が多い。リビングでは気の合う方同士で過ごせるよう配慮している。居室で自由に過ごされる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に馴染みのある物をお願いしている。写真等を飾っている方もいる。また、一時的な泊りと設定をしている方もいる。	室内には洗面台とクローゼットが備え付けられている。自宅からテレビや椅子、寝具など愛用の品々を持ち込んでもらっている。家族との思い出の写真や利用者の作品を壁に飾り、本人が居心地よく過ごせるよう環境づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室同じ扉の為、区別がしやすいように表札を貼っている。入居者の目の高さに合わせている。トイレの電気や洗面台などの使用方法についても掲示したり、都度説明をしている。		